

●安定器の取付工事には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず電気工事店（有資格者）に依頼してください。

お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、お守りいただくことを、次のように説明しています。また、本文中の注意事項についてもよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害を、次の表示で区分し、説明しています。

 <b>警告</b>	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。	 <b>注意</b>	この表示の欄は「重傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。
---	-----------------------------------	---	---

絵表示の例  「警告や注意を促す」内容のものです。  してはいけない「禁止」内容のものです。  実行していただく「指示」内容のものです。

お客様へ この取扱説明書は必ず保管してください。  
工事店様へ この説明書は、工事終了後、必ずお客様にお渡しください。

## 1. 安全上のご注意（必ずお守りください）

### 警告

-  ●安定器は下記の使用環境、条件では使用しないでください。間違えて使用すると火災、感電、落下の原因となります。
    - ・周囲温度が指定温度を超える場所
    - ・湿度が85%以上及び水気のはね返る場所
    - ・腐食性ガス、可燃性ガス、塩害の生じる場所
    - ・振動、衝撃の激しい場所
    - ・粉塵の多い場所
  - 安定器の構造を変えたり、ケースを開けたりしないでください。火災、感電、落下のおそれがあります。
  - 安定器のランプ側に器具を接続しない状態で放置しないでください。確実な絶縁処理をせず未結線のままで電源を入れますと、電線が焼損し火災のおそれがあります。
  - 管灯回路内に中間ジョイントとして、コンセント等の接続器を使用しないでください。絶縁破壊により火災のおそれがあります。
  - “高圧危険”ランプ始動のため、2～5kVの高電圧のパルスが安定器のランプ側に発生しますので、活線作業をしないでください。電撃による感電、墜落等のおそれがあります。（水銀ランプ使用時を除く）
  - 湿気の多い場所や水のかかる場所には設置しないでください。
  - 電線の絶縁体に刃物等による傷をつけないようにしてください。絶縁破壊による火災、漏電、感電のおそれがあります。
  - 屋外、又は雨水のかかるおそれのある場所では、安定器口出線を下に向けて取り付けてください。又、積雪や雨水の跳ね返り等で、口出線のところより水気が入り込まないように、取付高さ等に十分気をつけてください。絶縁が低下し漏電、感電等の原因となります。
-  ●ランプ交換や保守点検の際は、必ず電源を切って行ってください。感電のおそれがあります。
  - 万一、煙、異臭など異常を感じたら、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると火災、発火、感電のおそれがあります。

### 注意

-  ●布や紙、断熱材を安定器の上に置いたり、かぶせたりしないでください。温度が高くなり、保護機能が動作したり火災の原因となることがあります。
  - 安全に使用するために、3年に一回は工事店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら、交換してください。寿命末期（一般に寿命の目安は8～10年）の安定器をそのまま使用し続けると、火災、発火、発煙、異常発熱の原因となることがあります。
  - 口出線を持って安定器を運搬しないでください。接続部での断線、絶縁破壊、接触不良による発熱等事故の原因になることがあります。
-  ●安定器は、必ず適合するランプ（安定器の銘板に表示）と組合せてご使用ください。ランプの破損、短寿命、安定器の短寿命の原因となることがあります。
  - 冬季など、長時間使用しない施設では、周辺の湿気により絶縁が低下し、漏電、感電の原因となることがあります。湿気対策として定期的に通電してください。
  - 安定器の取付、配線は施工説明書に従い、結線は安定器の銘板に表示してある接続図通りに確実に行ってください。間違えて取付、配線しますと、安定器の落下、焼損又はランプの不点灯、破損等の原因となることがあります。
  - 安定器は接地工事が必要です。入力又は出力電圧が300V以下のものはD種接地工事を、300Vを超え600V以下のものにはC種接地工事を「電気設備技術基準」に準じて施工してください。接地工事をしないと感電の原因となることがあります。

### ご使用上の注意

- 安定器銘板に表示された電源電圧（変動範囲：±6%内）、周波数にてご使用ください。電源電圧、周波数を間違えた場合には、安定器・ランプの短寿命、故障の原因となります。
- 安定器周囲温度は-20℃～40℃の範囲でご使用ください。周囲温度が高いと、安定器の短寿命や、内蔵している保護機能が誤動作する原因となることがあります。-20℃以下でも、同様に安定器短寿命のおそれがあります。
  1. 安定器を2台以上並べて設置する場合には、相互の熱影響を防止するため安定器の幅以上間隔をあけて通風に注意してください。
  2. 安定器を箱の中に収納する場合には、容積を十分に大きくとり、かつ換気をして安定器が過熱しないように注意してください。（狭く周囲に空気の対流がなく熱がこもりやすい場所では、強制換気などを実施してください。）
- ランプが不点になったり、点滅を繰り返す場合は、そのまま放置しないですぐに電源を切り、ランプを交換してください。
- 安定器をポール内に設置する場合は、水抜き工事をして、絶縁が低下しないようにしてください。
- 天井裏等に設置する場合は、容易に点検できるように施設してください。これは、火災の危険を防止し、定期点検、異常時の処置を行うため「電気設備技術基準」で定められています。

## 2. 各部の名前と取付及び使用条件

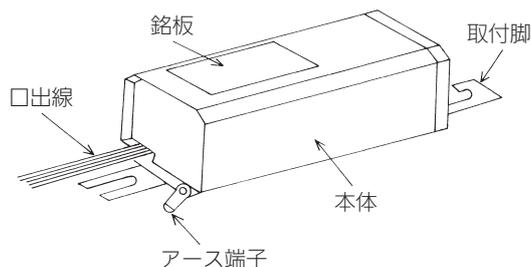


図1 (図は一部省略、抽象化してあります。)

	垂直取付	水平取付	横向取付
使用場所			
屋外	○	×	×
屋内	○	×	○ 400W迄

図2 安定器の取付条件

### ■管灯回路長さ

- 安定器銘板表示の適合ランプ毎に、管灯回路長さが決められております。必ず適合ランプを使用していただくとともに、ご使用になるランプの種類をご確認のうえ管灯回路長さを下表記載値以下にしてください。  
安定器内蔵のパルス始動器から発生されるパルス電圧が減衰して、ランプが点灯しない事があります。
- 安定器のランプ側口出線と、器具の間を延長する場合は、600Vビニル絶縁電線と同等以上の絶縁性能を持つ電線を使用し、ゆるみ、抜けのないように接続し確実に絶縁処理してください。

ランプの分類	ランプの種類	ランプの大きさ	電圧変動範囲	使用周囲温度	管灯回路長
水銀ランプ	日立水銀ランプ	300W	定格値±6%	-20~+40℃	170m (φ2.0電線)
		400W			130m "
		700W			75m "
		1000W			50m "
高圧ナトリウムランプ	ルミセラム・L	180W以上	"	"	50m
		110W以下			25m
メタルハライドランプ	メタルハライド・L	100~1000W	"	"	50m
セラミックメタルハライドランプ	メタセラム・L	200~400	"	"	50m

## 3. 取付けかた

### 1. 安定器の取付

- 取付前に安定器の重量に耐えるよう、取付部の強度を確認してください。
- 取付脚が可動式の場合は、いっばいに引出してネジを確実に固定してください。
- 安定器は図2の取付条件で、取付脚を取付ボルトに確実に固定してください。

### 2. 安定器の配線

- 銘板表示の通り結線をし、アース線の接続を施してください。
- ランプと安定器間の管灯回路配線長は、表の値以下としてください。  
この長さを超えますとランプが始動しないことがあります。
- 安定器の青色口出線は器具のソケットの中心接点側に接続してください。逆接続しますと、不点灯、感電、焼損の原因となることがあります。

## 4. 保証とアフターサービス

- 安定器の保証期間は、商品お買上げ日より3年間です。
- 保証期間を過ぎていた場合は、お買上げの販売店(工事店)にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。
- ご使用中、安定器に異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電気工事店又は下記のところに、安定器の形式、故障状況を連絡のうえ修理を依頼してください。
- この製品は日本国内用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。  
また、アフターサービスもできません。